

令和7年度第6回合同教育研究会議議事概要

1 開催日時

令和7年10月8日 13時00分～13時30分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、高橋副学長兼教育支援本部長兼教学IRセンター長、
亀田副学長兼研究・地域連携本部長、鈴木副学長兼事務局長、
高嶋学生支援本部長、猪股企画・広報本部長、高橋高等教育推進センター長、
工藤看護学部長、中谷社会福祉学部長、橋本ソフトウェア情報学部長、Tee総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、田中宮古短期大学部長、永富委員（学外委員：東北大学产学連携機構特任教授）、宮本委員（学外委員：岩手大学人文社会学部教授）

[オブザーバー]

米内事務局次長兼総務室長、中川教育支援室長、松崎学生支援室長、斎藤研究・地域連携課長、千葉企画・広報室長、高橋総務財務課長

[事務局]

森主幹、伊藤主任主査、伊藤主事

4 会議の概要

議事録確認

前回会議9月10日の議事録（議事概要）については、原案のとおり承認された。

審議事項

（1）学長選考会議委員の選出について

米内事務局次長兼総務室長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

協議事項

なし

報告事項（口頭報告）

（1）グローバルセンター サポーターについて

高橋教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、このサポーターはどのくらいの応募が見込まれているかとの質問があり、本事業は新規事業のため見込みは難しいが、すでにグローバルセンターの活動に積極的な学生が相当数おり、この学生の中からサポーターとして活動する学生が出るのではないかと予想している旨の説明があった。

(2) 日本学生支援機構が実施する「物価高に対する食の支援事業」等を活用した学生支援について

高嶋学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(3) 令和7年度大学祭（鶯風祭2025）の開催について

高嶋学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(4) 2025年度APRIN e ラーニングの履修状況について

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

(5) 令和8年度計画の策定に向けた学長ヒアリングの実施について

猪股企画・広報本部長から、資料に基づき説明があった。

鈴木学長から、長所を探すのが評価だと考えているので、そのような意味で学部の将来構想や大学にサポートを求める内容等があれば、その点についてもヒアリングを行いたいと考えていること、もっと大学の特色を出していきたいのよろしく頼む旨の発言があった。

委員から、ヒアリング項目の組織運営に係る現状・課題と改善に向けた取り組みの方向性について、各学部が提出を求められていた組織見直しに係る検討依頼との関連について質問があった。これに対し、この検討依頼と内容が合致するのであれば、重複する回答を提出しても支障ない旨の回答があった。

(6) 本部長会議及び大学運営会議の見直しについて

鈴木副学長兼事務局長から、資料に基づき説明があった。また、2月25日開催の大学運営会議について、入試日程と重複することから今後調整する旨の説明があった。

(7) 令和7年度第2回ハラスメント防止対策研修会の開催について

米内事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

報告事項（資料報告）

(1) 令和7年度後期「English Time」の実施について

(2) 令和7年度後期「数学学習相談室」の実施について

(3) 令和8年度総合型選抜（第1次選考）の選抜結果について

(4) 令和8年度編入学試験（看護・社福・総政）選抜結果について

(5) 大学院入試（看護学研究科・社会福祉学研究科・総合政策研究科第1次募集）選抜結果について

委員から、総合政策研究科の志願者が前年度比で増加していることについて、どのような工夫をしているかとの質問があった。これに対し、在学生ガイダンスにて研究科のPRを行ったところ、関心を持つ学生が増えたことの説明があった。

また、修士の進学率についてどのように考えているかとの質問があった。これに対し鈴木学長から、まずは学部4年+修士2年で学ぶ学生を増やしていきたいと考えていること、短期大学の場合は、四大への編入を考えて短大2年+2年なども考えていきたいことの意見があった。あわせて、日本社会は大学院卒業者をうまく活用できない状況にあり、一般企業が研究所を相次ぎ閉鎖するなど、社会が大学院卒業者を要求しない状況にあるうちは大学院進学者を増やすことは困難であることか

ら、社会と一緒にになってどのように進学者を増やしていくかを考えてなくてはならない旨の意見があった。

委員からこれに対する追加説明として、いまの質問についての直接的回答を本学ではまだ持っていないが、文科省の「知の総和」答申において5年修士という話も出ているものの、文章になっている部分では詳しい中身が記載されていないため、本当の背景や本学における適合性をどう判断すべきかの材料を持っていない状況である旨の説明があった。

これに対して委員から、研究大学の課題は博士課程に進む学生が少ないという点であり、研究を続けるにしても就職するにしても、ある程度のゆとりをもって考えられる時間が必要である旨の意見があった。加えて、初めから修学年数を決めずに、その学生にとってよいタイミングで次のステップに進むことのできるフレキシブルな仕組みがあればよいこと、学生側の経済的な理由や社会側の需要性の観点もあるため、どのような人材に関しての地域ニーズがあるかを踏まえて、リカレント教育のような受け皿を考えたり、教員のモチベーションを確保したりできる教育の仕組みが必要ではないかとの意見があった。

この意見に対し、以前、大学院重点化施策が進んだ際に、修士課程に進む学生は学部を3年で卒業できる等の柔軟性が示されたことがあったが、今回の文科省の施策がどのような柔軟性を持っているか分からず、との意見があった。

- (6) 令和7年度公開講座(滝沢キャンパス・宮古キャンパス)の開催結果について
- (7) 令和7年度地区講座(滝沢市睦大学との連携講座)の開催結果について
- (8) 「令和7年度岩手県立大学研究・地域連携本部研究成果発表会」の開催結果について

委員から、ポスターセッションに関する参加者アンケートについて、次回もポスターセッションを希望する旨の回答率が100%になっているが、この数値はアンケート回答者の39名全員が希望すると答えたのかとの数値に関する確認があった。

これに対し、今は数値の詳細については分からず、研究者と参加者が話ができる機会として、成果発表会当日のポスターセッションは盛況であった旨の説明があった。

- (9) 岩手県立大学データサイエンス・リカレント講座 EBPM実践コース、デジタルツール活用コース開催結果について
- (10) 岩手県立大学データサイエンス・リカレント講座 DX推進リーダー育成研修開催結果について
- (11) 「大学見本市～イノベーションジャパン 2025～」の出展結果について
- (12) 令和7年度岩手県立大学 地域連携棟一般公開(研究成果発表)の実施について

以上